

県内企業が挑戦する革新的な取組を発表 ～平成26・27年度補正ものづくり補助事業 成果事例発表会～



〔開会挨拶の様子〕

11月24日(金)、秋田市のホテルメトロポリタン秋田において、平成26・27年度補正ものづくり補助金を活用した事業者による成果事例発表会を開催しました。

本事業は、国のものづくり補助金を活用して、革新的な経営に取り組んでいる県内企業の活動事例を参考にさせていただき、一層のビジネスチャンス拡大に繋げていくことを目的に、3年前から毎年開催しています。

当日は、ものづくり補助金採択事業者の代表者を中心に、行政や関係機関など、総勢94名にご参加いただきました。

基調講演では「日本が生んだ世界食 インスタントラーメン～ヒット商品開発の舞台裏～」と題し、元日清食品ホールディングス株式会社知的財産部長の加藤正樹氏よりご講演いただきました。



〔基調講演：加藤正樹氏〕

1958年に「お湯をかけるだけ、2分でOK！」のキャッチフレーズで誕生したチキンラーメンの登場と、追随する他メーカーの市場参入により、当時1,300万食だったインスタントラーメンのマーケットは、今では世界中で1,000億食を超えるまでに成長しました。日清食品の「チキンラーメン」と「カップヌードル」は、これまでに全く無かった市場の開拓に成功し、インスタントラーメンは世界食として地位を築きました。

創業者である安藤百福氏の最後の年頭所感に「企業在人成業在天」という言葉がありますが、これは「業を企てるのは人であるが、一方で業を成すのは天にある」＝いくら素晴らしいと

思う商品を発明しても、時代が求めているものは消えていくということを暗示しています。成功はいつでも“時代”に委ねられ、「チキンラーメン」や「カップヌードル」も“時代”が成功へ導いてくれたと話します。

このほか、商品開発に伴う特許権、商標権、意匠権等に関する係争など、現在に至るまでの舞台裏について詳しくご紹介いただきました。

その後、ものづくり補助金の活用により革新的な取組に挑戦している県内企業3社より成果事例についてそれぞれ事例発表がありました。



〔発表者〕

- (1) 東電化工業株式会社
常務取締役 沢口 茂幸 氏(写真：左)
- (2) 株式会社秋田病理組織細胞診研究センター
代表取締役 阿部一之助 氏(写真：中央)
- (3) 秋田活版印刷株式会社
専務取締役 大地 進 氏(写真：右)

秋田活版印刷株式会社では、首都圏からの仕事獲得に向け、秋田と東京の距離感をなくすため、インターネット経由で首都圏の顧客や東京営業所の営業マンがダイレクトに校正できる「ウェブ校正システム」を導入しました。同社の大地専務は「首都圏からの受注にスムーズに対応できる仕組みの構築に成功したことで、今後は、デザインから印刷・製本までをワンストップで可能にする自社の強みを活かしながら、首都圏の顧客獲得に力を入れていきたい。」と今後の展望を話しました。

本会では、補助事業者に対する様々な支援を継続しており、今回発表いただいた3社の他にも、ものづくり補助金を活用した全ての企業の更なる挑戦を応援していくこととしております。